

小 臨 床

小 兒 破 傷 風

京都帝國大學醫學部外科學第一講座(荒木教授)

醫學士 鹽 見 公 平

(昭和17年10月20日於京都外科集談會所演)

小兒ガ一般的ニ痙攣素質ヲ持ツテキルコトハ誰シモ認メル所デアル。例ヘバ頭蓋外傷ニ於テ小兒ガ特ニ痙攣ヲ起シ易キ事實ハ既ニ荒木教授ニヨリ指摘サレタ所デアル。ソノ統計ニヨレバ小兒ノ重症頭蓋外傷後ノ痙攣發起率37%ニ比シ、成人ニ於テハ遙カニ低ク8%ニ過ギナイ。又疫痢、赤痢、百日咳、肺炎、狂犬病、感冒、鉛中毒等ノ傳染病及ビ熱性疾患ニ於テモ明ラカニ小兒ガ痙攣ヲ起シ易イ。

斯ノ如キ事實カラ脊髓及ビ腦髓ヲオカスト考ヘラレル破傷風ガ小兒ニ於テハ成人ト何等カ變ツタ反應ヲ呈スルノデハナイカト想像セラレル。

新生兒破傷風ガ腦炎トノ鑑別困難ナ程、腦症狀顯著ナコトハ幾多文獻ノ示ス所デアルガ、例ヘバ京大耳鼻科後藤教授ノ1例(診斷ト治療25卷9號)ヲ見ルニ、

『2歳5ヶ月、男子、兩側耳痛、項部強直、右斜頸等ヲ示シ耳性腦膜炎ヲ思ハシメタガ、其ノ後ニ定型の後弓反張ヲ示シ、痙攣發作オコリ破傷風ナルコト判明セリ』

尙、臺灣本島人ノ昭和12年中ノ1歳未満破傷風死亡者數5165人ヲ算シ、ソノウチ47.6%ハ生後5日以内デ死亡シテキル。

又、久野氏(名大、小兒科)ノ報告(治療學雜誌9卷12號)ニヨルト

『生後45日カラ15歳迄ノ13例(12年間)ノ破傷風中、重症10例、中等症2例、輕症1例デ、ソノ轉歸ハ全治8例、死亡4例、未知1例デアル。死亡例ハ總テ滿4年未満ニシテ潜伏期間短ク年少者程豫後不良ナリ。』

以上ノ報告カラ見ルト、4歳未満迄位ノ幼兒ノ破傷風デハ確カニ成人ヨリモ重篤ナ場合ガ多い様デアル。併シソレ以上ノ年齢ノ小兒デハ果シテ大人ト變リナイデアラウカト考ヘテキタガ、吾々ノ所デ最近經驗シタ3例ニ於テ注意シテ觀察シタコロデハ、大人ノ場合ト大シク變リハナサソウニ思ハレタ。

症 例

症例Ⅰ：谷○善○，17歳，男，京都市。

現病歴：8月1日水泳ニ行キ、8月6日左外聽道ニ疼痛性腫脹ヲ來タシ、ソノ加療中8月14日頃ヨリ次第ニ開口ガ障碍サル。

入院時所見：開口ハ殆ンド不可能、辛ジテ粥ヲ嚥リ得、左眼險部ニ時々、間代性痙攣ヲ見ル、全身痙攣發作、後弓反張、嚥下障碍等ヲ證明セズ、意識清明。

治療血清ヲ次表ノ如ク注射ス。

	靜脈内	筋肉内	腰髄腔内	計
第1日		6000 I.E.		6000 I.E.
第2日	12000 I.E.		12000 I.E.	24000 I.E.
第3日	12000 I.E.		12000 I.E.	24000 I.E.
第4日	12000 I.E.		12000 I.E.	24000 I.E.
第5日		6000 I.E.		6000 I.E.
第6日	12000 I.E.	12000 I.E.		24000 I.E.
計	48000 I.E.	24000 I.E.	36000 I.E.	108000 I.E.

経過：第2日ヨリ牙關緊急、稍々輕快ノ微アリ、第5日ニ 39°C ニ發熱シ血清病ノ疑生ズ。第12日ヨリ開口2糧可能トナリ、順調ニ経過シ第28日目ニ全治退院ス。

症例Ⅱ：北〇武〇、11歳、男、京都市。

現病歴：1週間前、左足趾ノ汗疱ヲ搔キ、ソノ部ガ化膿シ治療中、昨晚ヨリ牙關緊急、言語障礙ヲ生ズ。

入院時所見：開口全ク不可能、腱反射亢進セル他、全身及ビ局所痙攣ナク、後弓反張ヲ認メズ、意識清明。

治療血清ヲ次表ノ如ク注射ス。

	靜脈内	筋肉内	腰髄腔内	計
第1日	6000 I.E.			6000 I.E.
第2日			6000 I.E.	6000 I.E.
第3日				
第4日	18000 I.E.			18000 I.E.
第5日	18000 I.E.			18000 I.E.
第6日	18000 I.E.			18000 I.E.
第7日	36000 I.E.	6000 I.E.		42000 I.E.
第8日	18000 I.E.	12000 I.E.		30000 I.E.
第9日	12000 I.E.			12000 I.E.
計	126000 I.E.	18000 I.E.	6000 I.E.	150000 I.E.

経過：第2日ニハ後弓反張現ハル、時々、間代性痙攣アリ、第5日ヨリ稍々輕快ニ向ヒ、第10日目ニ血清病ヲ生ジタルモ大シタコトナク、第25日ニハ開口1糧可能、第47日目全治退院ス。

症例Ⅲ：花〇修、10歳、男、京都市。

現病歴：15日前、荷車デ左膝關節部ヲ轢カレ、開放性大腿骨折ヲ生ジ、受傷後12日目ヨリ開口ガ次第ニ不自由トナル。13日目ヨリ後弓反張ヲ生ズ。

入院時所見：後弓反張ヲ示シ、顔貌ハ痙攣様牙關緊急強シ。全身性痙攣ハ不明療、左膝關節部ニ膿苔ニ被ハレタル大腿骨露出セル汚穢ナル傷面アリ。

治療血清ヲ次表ノ如ク注射ス。

	靜脈内	筋肉内	腰髄腔内	計
第1日	5000 I.E.	10000 I.E.	5000 I.E.	20000 I.E.
第2日	7000 I.E.	5000 I.E.		12000 I.E.
第3日	12000 I.E.	12000 I.E.	10000 I.E.	34000 I.E.
第4日	24000 I.E.			24000 I.E.
第5日	12000 I.E.			12000 I.E.
第6日		12000 I.E.		12000 I.E.

第 7 日	12000 I.E.			12000 I.E.
第 8 日	12000 I.E.			12000 I.E.
計	84000 I.E.	39000 I.E.	15000 I.E.	138000 I.E.

經過：第3日目輕度ノ全身痙攣發作アリ，瞳孔稍々散大，對光反應稍々遲鈍，熱 39°C，第4日傷面ヲ切開排膿ス。ソノ後病狀變ラズ第10日目全身痙攣發作ニテ死亡ス。

從來例ノ統計

1. 破傷風ノ年齡的頻度

	1歳～5歳	6歳～10歳	11歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～60歳	60歳以上	計
京大外科 明治32年～昭和17年	0	4例	6例	6例	6例	4例	0	26例
一般報告 昭和13年～昭和17年	3例	5例	13例	8例	4例	10例	0	43例
計	3例	9例	19例	14例	10例	14例	0	69例

年齡的ニハ特記スキモノナク，負傷機會ノ多イ青壯年者ニ多イノハ當然デアル。

2. 潜伏期ト痙攣ノ狀態(特ニ小兒ニ就テ)

20歳未満 京大外科 昭和9年以後

姓名，年齡，性	年 度	負傷部位	潜 伏 期 初 發 症 狀	痙 攣 ノ 有 無 ソレ迄ノ期間	治 療	轉 歸
小○壽○子 女 12歳	昭和13年	左膝關節部	14日，全身倦怠	後弓反張，15日	血清 132000 I.E.	全治20日目
村○清○男 15歳	昭和16年	左足關節部	8日，言語嘶啞	全身痙攣，10日	血清 216000 I.E.	全治17日目
谷○善○男 17歳	昭和17年	外 聽 道	9日，牙關緊急	ナ シ	血清 108000 I.E.	全治37日目
北○武○男 11歳	昭和17年	足 趾 部	6日，牙關緊急	後弓反張，8日	血清 150000 I.E.	全治42日目
花 ○ 修 男 10歳	昭和17年	左膝關節部	11日，牙關緊急	全身痙攣，18日	血清 138000 I.E.	死亡10日目

20歳以上 京大外科 昭和9年以後

姓名，年齡，性	年 度	負傷部位	潜 伏 期 初 發 症 狀	痙 攣 ノ 有 無 ソレ迄ノ期間	治 療	轉 歸
島○松○郎 男 41歳	昭和9年	右 示 指	14日	後弓反張，17日	血清 145200 I.E.	全治26日目
黃 ○ 正 男 30歳	昭和14年	胃 部	14日	全身痙攣，15日	血清 192000 I.E.	全治16日目
北○善○男 0歳	昭和16年	左下顎部	20日	局所痙攣，23日	血清 114000 I.E.	全 治
森○京○郎 男 40歳	昭和16年	右 掌 部	4日	局所痙攣，9日	血清 288000 I.E.	全治79日目
辻 ○ 吉 男 59歳	昭和17年	右膝關節部	不 明	全身痙攣	血清 66000 I.E.	死亡 3日目

一般報告例(小兒) 昭和13年以後

報 告 者	年 齡，性	潜 伏 期 初 發 症 狀	痙 攣 ノ 有 無 ソレ迄ノ期間	治 療	轉 歸
福 良 政 雄氏 (中央醫學 9卷 6)	5 歳 男	牙 關 緊 急	後 弓 反 張 牙關緊急ノ翌日	ズルホンアミド劑	死亡 3日目
溝 口 す ま 子 氏 (兒科雜誌 47卷 7)	8 歳 男	4 日 牙關緊急	後 弓 反 張	血清 15cc. 宛反覆注射	輕 快
北 山 加 一 郎 氏 (臨床内科 6卷 11)	1 7 歳 女	約10ヶ月ノ經過ヲトリシ慢性型		血清 60000 I.E.	治
米 倉 氏 (兒科雜誌 46卷 1)	1 4 歳 男	21日 牙關緊急	全 身 痙 攣	血清 腰髓腔内	治

北 川 國 子氏 (兒科雜誌45卷11)	1 5 歲 男	8 日 牙關緊急	全 身 痙 攣	血清 90cc. 宛毎日 注射ス	全 治
北 川 國 子氏 (兒科雜誌45卷11)	1 2 歲 男	6日 口邊ノ疼痛	全 身 痙 攣		死 亡
田 中 尙 義氏 (熊本同門會誌7號)	5年7ヶ月 男	13日	1		治 28日目
寺 島 季氏 (日本內科學雜誌26卷)	2年7ヶ月 男	11日 牙關緊急	全身痙攣 12日	血清 6000 I.E.宛 毎日注射ス	治
寺 島 季氏 (日本內科學雜誌26卷)	6年6ヶ月 男	8 日 牙關緊急	全 身 痙 攣	血清 第1日 14cc.	全治16日目

以上通覽スレバ死亡率ハ小兒, 成人トモ20%内外ニテ大差ナイガ, 全身痙攣發起率ハ京大外科
ニ於テハ小兒成人トモ40%ナルモ, 一般報告例ニテハ小兒ハ9例中5例ニテ 55.5%ヲ示シ小兒
ニ於テハ全身痙攣稍々多キモノノ如シ。

潜伏日數モ平均 9 日ニテ成人ト變ラズ。

結 語

極ク小サイ子供ハ兎ニ角5歳以上ニモナレバ大人ト特ニ異ツタ點ヲ見出シ得ナイ。